2023年7月1日WEB病院説明会事前質問に対する回答

種類	質問	回答者	回答内容
採用試験	志望科の人数が偏っていた場合、調整が入ることはありますか？	指導医	今まで特定の科に人数が偏りすぎたことにより調整したことはございません。
	浪人、留年経験などは採用に不利となりますか。		選考試験が重要ですので、面接で聞かれた際に浪人・留年の理由やそこから学んだことをどう活かすかなどをきちんと説明できれば、不利にはなりません。
	病院見学に求める回数はありますか？ 試験日の違いに有利不利ありますか？		病院見学に求める回数はありませんが、当院をより良く知っていただくためにも1回は見学に来ていただくことをお勧めします。ただし病院見学の回数は選考試験に影響ございません。また、試験日の違いによる有利・不利はございません。
試験内容 （指導医宛）	貴院が初期臨床研修に求める人物像はどのようなものかお伺いしたいです。	指導医	やる気があり、自ら考え行動を起こせる人を求めています。そして当院のアットホームな雰囲気のなかにおいても常に上を目指す志がある方に来ていただきたいと思います。
	豊田厚生病院初期臨床研修に求める人物像はありますか。		
	豊田厚生病院を受験するにあたってどのような資質が望ましいか。		
	例にもありましたが、履歴書中心など、面接ではどのようなことを重視して質問されますか。		面接官によって質問内容は異なりますが、重視していることは当院のプログラムに合う人かどうかであったり、受験生のキャラクターがわかるような質問をしています。
	筆記試験と面接に点数の比重はありますか。		点数の比重はあります。詳細の回答は出来かねますが、比重が大きいのは面接です。
	英語試験、面接、小論文の配点について教えて頂けますと幸いです。		それぞれの配点についての回答は出来かねますが、配点が大きいのは面接です。
	研修医の先生方に、採用試験では面接よりも英語で差がついているのかもしれないとお聞きしたのですが、やはり英語が重要になってくるのでしょうか？		英文和訳より面接に重きを置いていますが、英語についても論文のアブストラクトを読むなどの練習をしておくことをお勧めします。
試験内容 （研修医宛）	面接や履歴書で気をつけるべきことがあれば教えてください。また、英文和訳は時間に余裕がありますか。	研修医	面接は履歴書から聞かれることがあるのでコピーをとっておいた方が良いと思います。また、1分間の自己PRがありました。 英文和訳は試験時間ぎりぎりで、10分余るかなくらいだったと思います。
	和訳問題の際に利用する電子辞書は医学辞書のようなものが入ったものでなければ厳しいでしょうか？		医学辞書でないと出ない単語もあるので医学辞書をおすすめします。 普通の辞書で受験した方もいるので、英語に自信のある方は普通の辞書でも良いかもしれません。
	選考試験の医学英語読解の対策は何をされましたか。		英文和訳：NEJMからテーマが選ばれていると聞いたため、NEJMの和訳ページを利用して論文用の単語を覚えました。3回程度練習しました。 小論文：テーマを基に事前に作成しました。 面接：必ず聞かれる設問などの練習をしていました。
	小論文や英文和訳の対策はどのようにされましたか。		
	試験対策は何をされましたか。		

種類	質問	回答者	回答内容
当院の印象	研修前と現在で病院の印象は何か変わりましたか。	研修医	見学に来た時と変わらず良い印象でした。
研修医 1年次宛 +内科専門医	研修医1年目の先生方へ質問なのですが、豊田厚生病院に入ってから知った良かった点はありますでしょうか。 内科専攻医として残る研修医の先生は何人くらいいらっしゃるのか教えていただけると幸いです。	研修医 専攻医	入ってから知った点は同期の雰囲気が似ていることで、良かった点はやりたいことを言うと大体させてくれることです。内科希望の人は毎年内科専攻医として残ります。残る人数は年によって異なりますが例年2～5名程度内科専攻医として残ります。外部から当院に内科専攻医として赴任される方もいます。
内科専門医	内科志望なのですが、専門医を取るまでのカリキュラムみたいなものがあれば教えて欲しいです。	指導医	当院ホームページ「採用のご案内」専攻医のページに『内科専門医研修PG』を掲載しております。PGに専門医を取るまでのカリキュラムを掲載しておりますので、ご確認ください。
プログラム	豊田厚生病院の初期研修プログラムで他の病院と異なる、こだわりや特色を教えていただきたいです。	指導医	救急車件数が約9500件と症例が豊富です。また、研修医の指導体制充実にも力を入れており、上級医・指導医が研修医と積極的にコミュニケーションを取りながら、診療や検査・手術手技の実践をサポートする、温かみのある屋根瓦方式の教育も当院の特徴です。また、診療科間の垣根が低くコメディカルも非常に協力的なため、チーム医療の学習・実践においても多くの機会を得ることが可能となっています。今後更に初期研修プログラムをより実践的なものに改善していく予定です。